



来年5月10日、仁風閣が誕生100周年を迎えることを、みなさんをご存知でしょうか。仁風閣は、1907（明治40）年5月の嘉仁皇太子（後の大正天皇）の山陰行啓（※）に際して、池田仲博侯爵が久松山の麓に宿泊場所として建てたものです。フレンチルネサンス様式の白亜の洋館で、山陰地方で唯一現存する近代洋風建築です。



『仁風閣誕生のころ』

仁風閣は、鳥取で初めて電灯・電話が使われた場所でもありました。電灯は、このとき国府の荒舟発電所から送電線が架設されたことで、仁風閣と市内86戸に点灯されました。電話は、仁風閣と市役所など行啓に関連する施設との連絡のために臨時回線を引き、使用されました。当時の鳥取は、道路

の整備・鉄道の敷設・殖産興業の定着など近代化の過程にあり、仁風閣はその象徴でありました。当館では、仁風閣の誕生100周年を契機に、来年4月21日から鳥

の整備・鉄道の敷設・殖産興業の定着など近代化の過程にあり、仁風閣はその象徴でありました。

当館では、仁風閣の誕生100周年を契機に、来年4月21日から鳥

取の近代化についての展示を企画しています。この展示を通じて、当時の鳥取を知り、現代生活を振り返る機会になればと思います。みなさんのご来館、心よりお待ちしております。

（やまびこ館 学芸員 横山展宏）

※行啓：皇太子、皇后が外出することを言います。天皇の場合は、行幸と言います。

おうちだに画報

誕生100周年

じんぷうかく
仁風閣

探しています

明治時代の貴重な資料、または嘉仁皇太子の山陰行啓についての資料をお持ちの方は、下記問い合わせ先までご連絡ください。

■問い合わせ先 やまびこ館 上町88
☎ (0857) 23-2140



■問い合わせ先
さじアストロパーク
佐治町高山1071-1 ☎ (0858) 89-1011

水星が太陽の前を横切る!

11月9日（木）の朝、惑星の水星が太陽の前を横切っていく現象（水星の太陽面通過）が見られます。現象は朝4時12分ごろに始まり、日の出が6時30分ごろなので、これ以降に観察可能となります。



水星はとても小さく、目で直接見てもわかりません。観察には望遠鏡などが必要となりますが、太陽の観察には危険がともないます。太陽投影板などの装置を使って観察してください。水星はだんだんと太陽の前を移動していき、9時7分には通り過ぎてしまいます。

水星の太陽面通過が次回日本で見られるのは、なんと2032年11月13日（土）で26年後となります。

佐治天文台長 香西洋樹の「空の向こうの物語」

Vol.10 天の階段

11月になると、夜空は秋から冬の星座で飾られます。東北の空にはエチオピアの王妃カシオペアが天に昇る階段のように懸かります。

ある女流詩人の作品に見ることができるのが、このカシオペアの階段。今は亡くなった友人を偲ぶ詩として、「友よカシオペアの階段を上って天国へと旅立ったのか」と切々と読み上げます。

北極星の右側でちょうど天上に昇るに相応しいような形で見えるのです。多くの人は、いかりほし 錨星とか やまがたぼし 山形星とか呼ぶこの星座を違った見方で見つめるのでした。この階段が懸かる頃、野分と呼ばれていた風は木枯らしと名前を変えて、木々の葉を散らし始めます。万葉集の秀歌として知られる柿本人麻呂の歌「東の野にかぎろいの 立つ見えてかえり見すれば月傾きぬ」というのがあります。

この歌が読まれたのは、旧暦の11月17日の夜明け前。奈良県 おおうだ 大宇陀の町外れ、「あきる野」でのことでした。天文学が解き明かした古代のロマンでした。

